

# 神戸大学生協 GI冬のフリマツリ2023



[消費者]

## 取り組み概要

日時：(回収)12/12~1/11  
(販売)1/17~1/19  
場所：国文食堂横ホール  
参加者数や組合員の反応：3日間のフリマには、のべ190名が訪れた。

背景や概要：神大生の「服」に対する意識から生まれた、リユースとリデュースの両面を考えた企画。組合員から集めた不要な服・アクセサリをフリマにて販売し、服を手放すきっかけ・ほしい服を手に入れるきっかけを与えることができた。

服への意識に着目した「きっかけ」の提供

### POINT.1

## 神大生の現状を踏まえたきっかけづくり



「神大生にはきっかけがないため服の整理ができていない」という分析から、不要になった服・アクセサリなどの小物を回収するため、ボックスの設置や学生委員による回収を通して、服・小物を手放す機会づくりをしました。ここで回収した服・小物がフリーマーケットの商品となります。回収には29名が訪れ、191点が集まりました。

また、提供点数に応じて、フリマ期間に福引きに挑戦することもできました。ものを手放すというのは勇気が必要なことですが、その後押しをして、きっかけの提供ができていました。

### POINT.2

## いよいよフリマ当日…！

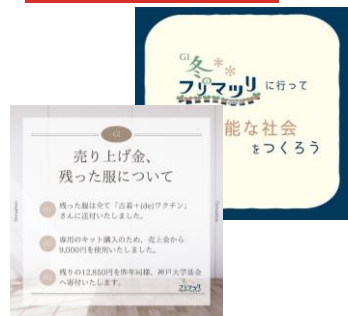
1/17~1/19のフリマ期間には、回収した服・アクセサリが販売されました。会場にはたくさんの方が集まり、3日間で来場は190名、売上点数は114点でした。服は200円から、アクセサリは100円からという低価格に設定されており、「金銭的な問題でほしい服に手を出せていない」という神大生の現状に寄り添うことができていました。

大学内で、同じ神大生が提供した服を購入できるため、安心して足を運べる環境となっていました。



### POINT.3

## SNSと他組織連携による、社会的課題を知るきっかけ



フリマの売り上げは、大学基金に寄付されました。また、フリマで売り切れなかった服・小物は、「古着deワクチン」というNPO団体に寄付されました。寄付した品は途上国で販売され、その売り上げの一部がワクチンとして提供されるそうです。

また企画中には、今回の企画とSDGsとの関わりについての投稿がありました。SNSも活用し、全体を通して服という身近なものから自然と社会的課題に目を向けられる、よいきっかけとなっていました。

つながる元気、ときめきキャンパス。



ご質問や[ K's NEWS ]で紹介したい活動があれば、ご連絡ください！  
ブロック学生事務局 [ 白崎 優奈 ]  
Shirasaki.Yuna@univ.coop